

おたる 西別院だより

お盆号



小樽別院盆踊り（別院境内）

盂蘭盆会

8月15日（木）・16日（金）午後1時30分より小樽別院本堂にて勤修いたします。

お盆参詣

8月7日（水）より12日（月）の間でお盆参りに伺います。
（あらかじめハガキにて、期日をお知らせいたします。）

納骨堂の読経

8月13日（火）より16日（金）の間は朝8時～夕方6時まで納骨堂での読経を受けたまわります。

8月7日（水）より、16日（金）まで、月忌参詣をお休みさせていただきます。

盂蘭盆会に想う



輪 番 片 山 晃 英

お盆には、平素仏縁のない者でも、お墓に参ったり、お寺にまいったり、お仏壇に詣る習慣が生きております。これは今は亡き人への思慕が、お盆という仏縁を通して深められている尊い習慣であります。

お盆には、やはり身近な人の死が最も鮮やかに、それぞれの人の心によみがえってくるようです。親には苦勞のかけつばなしであったこと、お年寄りに対して思いやりの心がなかったことなどが思い出されて、手を合わすにもお盆であります。

お釈迦さまは、私たちが人間に生まれることができたのは両親の縁のおかげであって、誕生の後のお育てのご苦勞をかけたのも両親であり、両親は生死を超えて大切にすべきであると論じています。

世間でよく「親には安心してもらわねばならないし、孝養を尽くさなければならぬ」と心では思っているのですが、「と言う人がありますが、どれほど頭や心で思っ

ていても、それでは孝養になっていないのです。お釈迦さまは、親には色養せよと申されております。

「色」はかたち・すがたといえますから、色養とは心で思うだけでなく、行動で以って、身体で以って、すがた・かたちで現に生きておられる両親に、仕えることを申されたのであります。

お盆では、亡くなられた両親に対する色養だけでなく、現に生きておられる両親に対しても、身体、行動で以っておつかえをさせて頂くことが大切であり、色養せよとお釈迦さまのお諭しの趣意であります。

お盆会は、生と死をこえてあらゆるご縁のあった人びとに報謝の思いをもち、人間に生まれたご縁と人間が仏なることのご縁を喜ばせて頂く法要であります。盂蘭盆会は喜びと報謝の思いで勤めましょう。

合掌



お知らせ

第23代宗主勝如上人（大谷光照前門様・当別院前住職様）におかれましては、かねてご療養中のところ、6月14日（金）午後1時16分、ご遷化になりましたので、ここに謹んでお知らせいたします。

別院では、ご葬儀が京都のご本山で営まれる当日の、来る7月18日（木）午後1時30分より、本堂において追悼法要をお勤め致しますのでご参拝をお待ちしております。

合掌



別院フォトクラブ

降誕会編



初参式



双葉高校参拝



宗祖降誕会

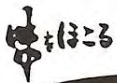


お稚児さん



次回もお楽しみに。

冠婚葬祭御料理 仕出し宴会場



ともよし

小樽市花園4丁目19番14号
電話(23)2267

葬儀

株式会社 博禮社

〒047-0024 小樽市花園3-25-15
電話（代表）23-0246番
■24時間営業■

仏壇は心のよりどころ...

まごころこめて
ご奉仕いたします。



仏壇、仏具、お宮、神具、寺院荘厳仏具

仏壇・仏具の
善光堂

小樽市花園2丁目5番5号
佐々木仏壇店
電話(0134)25-6105番

別院にて仏前結婚式！

去る五月二十五日（土）、当別院職員（村田法道承仕（若竹説教所主任））が御結婚されました。新婦となられたのは、旧姓櫻井真里さん。現在、小樽幼稚園の主任先生です。結婚式は午後四時から小樽別院の本堂にて片山晃英輪番が司婚者となり、おごそかにつとめられました。

親鸞聖人のみあとを慕う私たちにとつて、阿弥陀如来の尊前で結婚式を挙げることは、まことに意義深いことでもあります。希望と感謝の新たな家庭生活にみちびかれた因縁の尊さを味わい、お互いの理解と尊敬と責任のもとに生きることを仏祖に奉告し、慈光につつまれて歩む敬愛和合の日ぐらしを誓いあう大切な儀式であ

るからです。同時に、仏前結婚の意義を、親族・友人・知人とともにかみしめ、二人の門出を祝いの中で認めていただく大切な儀式でもあります。これより、お二人が結婚という人生の新しい出発点を機縁として、益々お念仏をよりどころとする生活にいそしまれることをご期待いたします。



本願寺小樽別院本堂・鐘楼堂 平成大修復について （お願い）

当別院本堂は大正元年（一九一二年）に建立され建築後九十年を経過しておりますが、現在まで本格的な改修がなされておらず、凍害や雪害の影響もあつて老朽化が著しく、随所に危険箇所が見られることから、平成十一年に本堂建物の調査を寺院建物に詳しい専門業者へ依頼いたしました。

まりいただき協議を重ね別院役員会で了承を得、このたび平成十四年五月二十四日付、京都西本願寺のご門主のご許可を頂きました。

その結果、当別院は西本願寺の北海道開教に重要な役割を果たしてきた歴史的価値があると同時に北海道内の寺院建築としても大変貴重であるため、早期に大規模修復が望まれるとの結論に達しました。

つきましては、親鸞聖人七五〇回大遠忌を平成二十三年（二〇一一年）にお迎えするにあたり、当別院本堂建立一〇〇年の記念事業といたしまして、平成十四年度より五カ年計画にて本堂・鐘楼堂の修復を進めてまいりたいと存じますので、門信徒の皆様には何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

その後、今日まで本堂修復について別院責任役員・総代の方々に年に数回お集

尚、ご懇志のご依頼等、詳細については改めてご案内の上、お願い申し上げます。予定でございます。

合掌

別院盆踊り

●日 時 8月3日(土)・4日(日)
午後7時～9時まで

●場 所 本願寺小樽別院境内

※雨天の場合は中止となります。又、午後6時以降は境内への車の乗り入れをご遠慮下さい。

お楽しみ
抽選会有り!



お墓に参る

お彼岸やお盆の時期になると、これまでひっそりとしていた墓地に参拝者がどっと訪れ、あちこちで手を合わせる光景が見られます。「彼岸」や「お盆」という仏教行事を通してではありますが、さめた現代人でもさすがに故人を偲び、ご先祖に感謝する心だけは失っていないようです。

ところで、こうした墓参光景が例年、ニュースで報道されますが、その紹介の仕方が決まったように「墓前で」先祖の霊を慰めていました」となります。

関西では大谷本願の墓地がよくテレビに映るのですが「はたして大谷にお参りの真宗門徒も、手を合わせて先祖の霊を慰めているのか」と疑問に思ったり、つい不安になったりしてしまいます。故人の好きだったお酒や食べ物などを供え、故人の“霊”に手を合わせて慰めることがお墓参りだと思っ

ているとしたら、それは少し筋が違います。はつきり言って、お墓に先祖の霊が宿っているのではありません。固定的実体的な霊をそこに見

ようとするのは、他ならぬ私自身の執着心がなせるわざで、実際には、故人はお墓の中に眠っているわけではなく、また遺骨が故人なのではなく、すでにお浄土へ還られています。そして、お浄土から私たちに向け、如来さまの真実を知らせんがためにはたらいて下さっているのです。

それでは、お墓は何のためにあるのでしょうか。お墓は、先祖あるいは故人が必要とするからあるのではなく、私たちが先祖、故人を敬い讃えたいと思うから建てるのです。さらに言えば、かけがえない命を私に伝えて下さったご先祖に感謝しつつ「その命を精一杯輝かせて生きてくれ」という私へのご先祖の願いを聞く場でもあります。

また、遺骨を前にして諸行無常を味わうのもお墓でしょう。

諸行無常の理をかみしめ、先祖の願いを聞きながら、生死を超えて確かな依り所となるお念仏の教えを味わう場―それがお墓ではないでしょうか。

十人十声

●親の心と子の心

村上 隆昌



アフリカのウガンダという国の女性は、お産の陣痛が始まると、一人そつと物かけに入って、

自分の力で赤ちゃんを産むのだそうです。そして、その時から彼女たちは生まれたばかりの赤ちゃんを首からぶら下げた一枚の布に包んで、片時も離すことなく、二十四時間生活を共にします。しかも驚いた事に赤ちゃんの排泄物でその布を汚すことは絶対にならないのです。生まれてから一週間もたつのに、排泄物でその布を汚すような母親があれば、村人たちから「母親失格」のらく印を押されるといいます。妙好人の浅原才市さんは、片時もお念仏を忘れない、うるわしい方でした。「市よい、こはどこ。こはなむあみだぶつ。才市やどこにおる。なむあみだぶつの中におる。どうしてか。南無は私で、阿弥陀は親で、南無も阿弥陀もみな一つ。なむあみだぶつ、なむあみだぶつ。」阿弥陀さまと才市さんは、親の心と子の心、切っても切れない深い絆で結ばれています。生死に沈みつ放しのこの私を救い上げるために、先手をかけて大悲の心を、なむあみだぶつ」の名号に仕上げて下さったのです。明日をも知れぬ人生を歩むこの私が救われていく道は、ただ一つ、お念仏をわがいのちの中にいただくばかりです。「私の大切な赤ちゃんがいまオシッコをしたがっている、先手かけて聞きとれない音に母親の資格がありますか」と女性が言われたそうです。親鸞さまから「念仏の人よ」「念仏の行者よ」と喚びかけられているあなたや私の生きる姿は、お念仏の日ぐらしてなければと思うのです。

●聴聞について

西川 達恵



「私達の浄土真宗は聞法教団だから、つとめて聴聞することが大事ですね」と今までに何回となく聞いてきました。聴聞の聴は聴受の聴、聴聞の聞は新聞の聞、どちらも大きくという意味をもつ字がありますが、聴という文字には、念を入れてきくとか、きき入れるという意味があります。聞には、声が入るとか、きいて知るとかという意味があります。したがって聴聞とは、私の耳に声がときき、知らせただけではないことを味わうということです。耳に聞こえただけでなく、たとえば「子供の為にも、お願いですからキャンセルをやめて下さい」と言われて、キッパリとキャンセルから足を洗う身になって奥さんの願いがきけたといえるでしょう。すなわち相手の心を私が受けとることによって、きけたということになります。さて私達、浄土真宗の念仏者は「何を、どのように」聴聞すればよいのでしょうか。大無量寿経には「本願の名号を聞く」とありますが、親鸞聖人はその心を「仏願の生起本末を聞く」と教えて下さいました。ですから「名号を聞く」とは名号（南無阿弥陀仏）のおいわれを聞かせていただくということとです。「言い変えると如来のご本願は誰のために起されたのか」といふことを聞き、今どのようにしたらいいか、お心をお聞かせして頂くのを聴聞といっています。

●人間に生まれたよろこび

梶 純信



人間に生まれ人間として育てられ人間らしい生活をつづけ、人間にふさわしい死を迎えられるということは人間だれしもが心の奥ふかくもちつづける切実な願いでありましよう。しかしながら、「人間に生まれてよかった」と手放し

で喜び、「なんと有り難いことだろう」と無条件に感謝できる心を恵まれている人は案外少ないのではないかとと思われまう。

生活が自分の思い通りになるから喜ぶ、現在の暮らしがしあわせだから、有り難く思う、願いがかなえられたから、ご先祖や神仏に感謝する、という生活を送っている人はたくさんいらっしゃるのでしょうか。しかしよく考えてみますと、そこには、自分の思い通りにならなくなったらどうしようという不安や、他のことには目もくれないで、今の自分の幸せな生活を守ることにしか関心が向かないという自己中心の考え、またご先祖や神仏を、自己満足させるための手段としてしか敬わないという身勝手さや思い上がりが隠されているのではないのでしょうか。

仏教とはめぐみでありまう。また仏の心とは大いなる慈悲の心であります。阿弥陀如来さまは不安を抱え、身勝手な傲慢な私のがた心の動きのひとつひとつを憂い悲しみ、ご本願をおこされました。そして「われをたのめ、必ずすくう」とつねによびかけて下さっています。

阿弥陀如来さまの真実の光に照らされて、わが身をしっかりと見つめ直すとき、いつも自分のことだけを願ってはかりであつたわたくしが本当は願われて、生かされているのちであつたことに気づかされます。そこで初めて「人間に生まれてよかった」、「なんと有り難いことだろう」と喜ばせていただくことができるとは、思いませんか。

●聞法

村田 法道



仏法は聴聞にきわまると申されまう。聴もきく、聞もきくと申す。聴という場合は耳で聞く、身できくということと申す。聞という時は心で聞く、心に聞こえてくるのが聞でありまう。働いて生活をしているのが身です。人間はいくつになつても生活に追われ、ときには生活に溺れてしまつてまう。この身を生活の中から、生活をかかえて聞かす。一日働いて疲れてねむたくなる。TVの前に座ると立てない。色々なことが思われる。

とにかく忙しい等々。その身をそこから出て聞くのです。努力して真剣に求道していくのです。身で聴くと心に「聞こえてくる」世界が開けてまう。耳をすまして聴くと、「ああこういう世界があつたのか」と聞こえて下さる。人生がうなづけていけます。親鸞聖人は、「聴はゆるぎされてきく。聞は信じてきく」と深い味わいをのべておられます。あたり前でない。仏法をきく身の有難さであります。

「風の声 竹の声」より

●紫外線対策

相馬 早苗



今年もまた、暑く、日差しが強い季節となりました。私は、どちらかと言うと、寒い寒い冬よりも、暑い夏の方が好きです。でも暑いからといって、お肌を出していると、皆さんの紫外線を浴び、シミ、シワを作る原因となつてまう。

太陽の有害な紫外線から地球の生き物を守っているのがオゾン層ですが、そのオゾンが次々と破壊されてまう。今破壊されているオゾンは、実は十五年前に私たちが放出してしまつたフロンで、フロンガスは、十五年かけてゆっくりと上空に到達すると言われてまう。と言つては、今放出しているフロンは、十五年後に強力な紫外線となつて、私たちの住む地球へと帰ってくることにまう。

日々、紫外線対策をすることも大切ですが、それと同じように、オゾン層の減少をこれ以上進むことのないように、心がけてゆかなければなりません。



仏教用語豆ちしき②

隠密
おんみつ

隠密はテレビの時代劇によく登場します。江戸時代の忍びの者のことであることは、よくご存じでしょう。伊賀者や甲賀者が代表されるように、専ら密偵を仕事とするスパイです。江戸幕府では表向きの監視役である目付に対し、隠し目付・忍び目付と呼ばれる陰の監視役でした。

仏教では、仏の教えの本旨が表面に出ないで、言説の裏に内深く隠されていることをいいます。

『教行信証』に「観無量寿経を按ずるに、顕彰、隠密の義あり」とあるのがそれで、お経の文面だけを見ると、定散諸行と自力念仏が説かれています。その奥には他力念仏が明かされていることをいいます。



マンガ仏事入門〈合掌の巻〉

① だまん だぶつ...
② はちん
③ はちん
④ ナーダン ナーダン
⑤ 教えないね...
⑥ この合掌は難しい言葉で「堅実心合掌」といって強い気持ちを表します

⑦ 礼拝するときは ゆっくり上体を 45度ほど 曲げ
⑧ わかりやすく いえは「阿弥陀さま いつも見護って ありがとうございます」ということかな

⑨ 私（わたし）は 阿弥陀さまを 信じる気持ちに 間違いありません」といっているという形に いいでしょう

⑩ 手の平と指の間をピッタリ合わせ 念珠は房を下にして 親指で軽く おさえます
⑪ みぞおちの辺りに 軽くおき
⑫ 手の角度を45度くらいにして自然にかまえます

⑬ 静かに体をおこします

50	33	25	17	13	7	3	1
回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	周忌
—	—	—	—	—	—	—	—
昭和28年	昭和45年	昭和53年	昭和61年	平成2年	平成8年	平成12年	平成13年

2002年（平成14年）
年忌表

●3分間の心のともしび

小樽別院 **テレホン法話**

24時間いつでもどうぞ

TEL 27-1616

みんな仲良し

小樽幼稚園

～まことの(いのち)の保育を行います～

当園では、浄土真宗のみ教えに基づき「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」などを育てるような保育に努めています。

又、お絵かきや工作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、週に2・3回クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。

途中入園も受け付けておりますので、ご不明な点などございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

又、見学もできますので、ぜひ一度お越し下さい。

遠足(5/29)の様子

行き先:花園公園

新学期が始まり、初めての遠足でしたが、子ども達はとても頑張って歩いていました。現地ではウサギやヤギなどの動物を見たり、きれいなお花を觀賞したり、とても喜んでいました。公園でみんなで食べた昼食やおやつもとてもおいしかったようです。

運動会(6/16)の様子

場所:量徳小学校グランド

子ども達は、お遊戯や学年別競技、玉入れ、綱引きと、いろいろな種目に参加しとてもはりきって行っていました。年中・少組は頑張っている姿がとてもかわいらしく、年長組は体も大きい分とても迫力があり、客席からもたくさん声援や拍手を頂きました。又、ご父母の皆様による父母リレーや綱引きもたくさん参加して頂き子ども達の声援の中盛大に行われました。子ども達にとってもとても楽しい思い出になったようです。

☀️ 保育時間 ▶ 月曜日～金曜日(8:40～13:30)

☀️ 昼食 ▶ 毎週火曜日は、給食(パン・飲み物・デザート)で、それ以外の曜日は、お弁当です。

☀️ 預り保育 ▶ 月曜日～金曜日(17:30迄)行います。(15:00迄は無料です)

☀️ プール遊び ▶ 年間を通して、週1回温水プール遊びを行っています。

☀️ 送迎バス ▶ ご希望の方は、ご自宅付近まで送迎致します。

☀️ 主な行事 ▶ 花まつり・降誕会・運動会・海水浴・親子遠足・報恩講・お遊戯会・おもちゃつきなど。

園児募集 途中入園可能

★募集園児 3才児(3年保育)～5才児(1年保育)

- ・お気軽にお問い合わせ下さい
- ・見学もできます



学校法人 小樽龍谷学園

小樽市若松1丁目4番17号

小樽幼稚園

TEL 0134-22-6536